

南部町

昨年10月に合併しまして朝鍋、賀祥2つのダムを持つことになりました。

今年、朝鍋ダムは早速効果を発揮し、干害から大豊作、賀祥ダムはアオコの発生で心配しました。

下水と農業集落排水を一本化し、上流部の下水、汚水処理に力を注ぐと水質はきっと良くなるのだと思いますが、今年のように雨が少ない年はアオコの発生など、遠因をたどるとやはり山の荒廃に行き着くのかと思います。

11月3日、西部の市町村から負担をいただいて「森のめぐみ感謝祭」という大きなイベントを開催しました。森の重要性を認識し、森に感謝する。今後も上流、下流一体となって引き続きやっていきたいと思っています。

日赤奉仕団の法勝寺川清掃、中学校の賀祥ダム水質検査、寺内川の水生生物の調査等、町では6月第1日曜日を川や道路周辺環境整備を一斉清掃の日として取り組んでいます。

ダムを活用して水に親しんでいくさまざまな仕掛けをしていて、湖畔に桜を植栽、ボート、オートキャンプ場、バンガロー、親水公園など水に遊ぶ仕掛けを工夫しています。

また、金田集落ではホタルを養殖して放流しホタルの名所になりつつあります。

南部町では昔、234年かけて佐野川用水を完成させた先人がいます。水を活用した歴史を学びきちんと受けついで後世に渡すのもまた、日野川を語る会の役割ではないかと思っています。



坂本 町長

日南町

日南町は日野川の源流域にあり、金名水とか銀名水といわれるすばらしい水があります。かつては山水、地下の井戸水を使っていましたが、近年水道がようやく普及してきました。

しかし、県下の平均水道普及率を大中に下廻って6割余り、今でも井戸を掘って使われている地域もあります。これは水そのものが良質であるからだと思っていますし、このため井戸を掘る方に補助する制度もつくっております。

水稻のコシヒカリ、作物としてトマト、特にモチ米は全農の産地指定米になっています。水と食糧はつながっているのだと思います。

今、日南の水を守る会があり、アユ釣り大会、日野川源流かっぱ祭りなど、イベントや活動、さらに日南環境林という680ヘクタールの山を町が求め、環境林を利用し下流域も含め体験活用して山への理解を深めて頂いています。

近年温暖化で濁水と洪水が交互にやってきます。森林保全、日野川の森構想の中で荒廃した山の木材加工により収益にかえていくことなど、森を整備する、また、生活排水も合併浄化槽など町が事業主体になり「きれいな水を下流域に」をテーマに取り組んでいます。

杉林に乱舞するヒメボタル、ブナの原生林ニホンサクラソウの保全など、源流域の日南町は水をきれいに下流に流そうという環境の取り組みをしているところです。



矢田 町長

日野町

私達の小・中学時代は常に川で遊んでいた記憶があり、プールもありませんので日野川で泳ぐ、釣る、潜るといって川にかかわっていた思い出があります。

平成5年、県の河川整備事業でせせらぎの水辺の河川公園を造って頂き、これにあわせ、カヌーの艇庫、カヌー20艇を整備しました。カヌーの大会などを自然のコースで行うことができ、特に中国地方でも有数のスラロームのコースは、県内外から利用頂いております。

又、ご存知のオシドリは、10月から3月中旬まで1,000羽を越える数が集まり、全国から16,000人の方がお見えになります。

これについてはボランティアの方が努力されていますが、エサが川の環境に影響を与えるなど、いろいろ難しい部分があるそうです。

さらに地下水を利用してサワガニの養殖を卵から育てて出荷しています。

また、県の森林環境保全税を使った、森に対する子どもの気持ちを養う意味で、シイタケの植菌、クヌギの植栽、針葉林の手入れ、枝打ちの体験など実施しています。特産品では鈴原糯（スズハラヌカ）という銘柄が県やJAから推奨品種、銘柄指定を受けています。そして毛無山、宝仏山のブナの原生林を大切な資源として、大小の河川から日野川に注いでいる源として地域の方々とともに日野町は日野川を守るため取り組んでいます。



岩川産業振興課長

江府町

名前の由来が、日野川、俣野川、船谷川、小江尾川が合流して府をなすということで、川については深い関わりがある町です。

県境サミットが行っていた水源トラスト事業、森林活動のための取り組みを今、町独自で行っています。

又、サントリーが平成20年春をめぐりに誘致するなど、江府町は水とのかかわりが深いですが、水を商売にするのではなく、水をキーワードにした町づくりが出来ればと思っています。

日野川源流米コンテストでも9つの賞のうち4つが江府町で、米も特産品の一つとして売り出していきたいと考えています。

山林は1万ヘクタール、そのうち4割が広葉樹で、トラスト基金や森林環境保全税で維持していきたいと思っています。

ハード面では集落排水も一地区を残して完了し、今後は合併浄化槽の推進をと思います。

役場の下船谷川では住民ボランティアで河川清掃を自主的にやっておられ、ホタルが住みつく良い川になってきています。住民の手で河川を維持して生かす、そういった取り組みにこれからも町として応援していきたいと考えています。



伊藤 助役